

街道を歩く

東海道遠江駿河：01 府中—手越—丸子

つらう

浮月楼 (明治24年に料亭浮月楼、庭園一部残る)
後の將軍徳川慶喜は明治元年(1868)謹慎の身で
戸から駿府に移され宝台院に閉居。翌2年に代官所
下(のち浮月楼)に移り20年間過ごした。その後鉄道の
騒音を避け市内西草深に転居。明治30年(1897)
東京に移る。



だいじん

台院 (浄土宗、本尊木造阿弥陀如来立像は国重文)
E17年(1589)秀忠の生母西郷局は市内、柚木の
泉寺に葬られた。寛永3年(1626)秀忠は母の
誕を弔うため寺を現在地に移した廟を建て寺号を
台院とした。



うがい

街の碑

街とは二丁町の意味。江戸初期戦乱で住民の気持ちが
さんでいた。家康は住民の気持ちを和らげるべく遊郭を
一画。揚々町ほか六町を区画、京都伏見から遊郭を誘致。
栄したが元和元年5ヶ町を江戸吉原に移し2町を残した。
町(安倍川町)は昭和32年まで続く。
[次・喜多]さんも三島でゴマの灰に金を取られたが府中
宿で知り合いから金を借り二丁町へ出かける。

井正雪公之墓址碑

雪は駿府宮ヶ崎の紺屋に生まれる(由比とも)
歳で親戚の菓子業手伝いで江戸に出る。
込に住んでいた楠木正成の子孫という老人
ら楠流の軍学を学び、秘伝を伝授され武芸を
え多くの弟子が集まり信望を集めた。
喬忠弥らと倒幕を企てるが仲間の密告で忠弥
江戸で捕捉。駿府梅屋町”梅屋”にいた正雪は
奉行に囲まれ仲間とともに自刃。首が安倍川に
される。享年42歳。(慶安事件)



安倍川の義夫の碑

紀州の旅人が駄賃を惜しんで着物を脱いで
安倍川を渡るが大金の入った財布を落とす
それを拾った人夫はお礼を固辞したので旅人
奉行所に申し出る。奉行所は善行を称え人夫
褒美を贈る。この美談、戦前教科書に載る。

丸子宿 府中宿より1里16町

本陣1、脇本陣2、問屋1、旅籠24。
宇津ノ谷峠手前赤目ヶ谷と安倍川畔の
低地の間に設けられた小さな宿場。
安倍川の川越の権利が認められていた。
鎌倉時代、すでにこの地支配の手越家綱
によって宿が出来ていた。

手越河原の合戦

建武2年(1335)新田義貞を総大将とした
天皇側と鎌倉に幕府を樹立しようとした
足利尊氏軍の大将足利直義軍が戦った。
直義軍大敗。



府中宿 日本橋から19番目、江尻宿より2里25町
本陣2、脇本陣2、問屋1、旅籠43。町並 南北28町
駿河の国の国府があったので政治の中心。古代より
”安部の市”があり商業地、今川時代より城下町、浅間
神社の門前町であったのに賑わいのある町であった。

大己貴命を祀る神部神社、木花咲耶比売命を
祀る浅間神社(この2社合祀)と大市比売命を祀る。
大歳御祖神社の3社からなる。惣社と呼ばれていた。
鎌倉時代から幕府、藩主から保護されてきた。
大拝殿は代表的な浅間造り。



駿府城址

天文18年(1549)今川範政が館を建てたのが始り。その後
武田が支配。天正13年(1585)家康が浜松からここ駿府に
移る。小田原合戦後家康は江戸に国替えされ秀吉の家臣
中村一氏が城主。関ヶ原合戦後家康の異母弟内藤成信が
入城。慶長12年(1607)家康が隠居、再建にかかり慶長15
に天主完成。元和2年(1616)75歳で亡くなるまで大御所政治
をする。寛永元年(1624)3代將軍家光の弟忠長が城主となる
が忠長乱心で改易、蟄居。以後城主を置かず天領となる。

